

人文系/基礎科目

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|--|---|-------|
| 哲学A | 生と死の意味について考える | 篠原 隆 | 1年次前期 |
| 講義の目的 | 人類の遠い記憶である神話や無意識の深層心理の世界を覗くことによって、我々の生の根源について考え、我々の価値観を再検討し、生きる意味について考える。学生諸君は、生についての様々な視点について学び、自らの死生観を捉えなおし、今生きていることの意味を考え直す機会を得ることができる。「私とは何か」という哲学の基本問題に立ち向かう。 | | |
| 到達目標 | 生の始原について、神話、ギリシャ悲劇、精神分析等を題材にして、様々な視点から、自らの存在の意味について、論理的に語るができる。また、自らの死生観を持つことができる。 | | |
| 内容講義 | 生・老・病・死という生の4つのステージの中で、生だけしか肯定できず、他のステージを否定するのなら、自己の存在をどうして肯定できるだろうか。死と生が切り離すことができないなら、生だけを肯定できるのだろうか。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | ガイダンス1 私とは何か 見ることと見えるものについて | |
| | 第2講 | ガイダンス2 鏡と私 | |
| | 第3講 | 第1部「我々はどこから来たのか」開始 始源のイメージ 大蛇と書いて母と読む | |
| | 第4講 | 太母神 母と息子の恐ろしい関係 産む=殺す アルテミスとアマゾン軍団 | |
| | 第5講 | 第2部「我々は何者か」開始 抑圧の世界としての文明 『オイディプス王』 汝自身を知れ、見えないもの | |
| | 第6講 | フロイトの「エディプス・コンプレックス」 我が内なる父 無意識と超自我 | |
| | 第7講 | 映画『アポロンの地獄』を見る 有名な「人生は始まったところで終わる」という台詞の意味を知れ | |
| | 第8講 | 悲劇『エレクトラ』夫は他人だ、歴史的裁判 母は生みの親ではない！ 男がはらむ、これが常識だった | |
| | 第9講 | 天地創造とは母親殺しと死体解体の物語 アダム最初の妻リト 男尊女卑と女性恐怖症 | |
| | 第10講 | エデンの園で起こったこと 母という名の妻 なぜ蛇は女の顔をしているのか | |
| | 第11講 | 男の理想聖母マリア 処女=母=妻 太母神化するマリア | |
| | 第12講 | 集団インポテンツと魔女狩り 誘惑者としての魔女 男のジレンマ (好きだ、でも怖い) レイプ魔の論理 | |
| | 第13講 | イエスの女性観 イエスの妻 父は母の息子にして母の強姦者 (グノーシス神話) | |
| | 第14講 | ロックミュージカル『ジーザス・クライスト スーパースター』を見る | |
| | 第15講 | 第3部「我々はどこに行くのか」抑圧としての生 エロス (愛) とタナトス (死) | |
| 方法指導 | 講義を中心とし、毎回資料を配布する。映像資料を満載し、視覚的に捉えられるようにする。毎回、感想・意見を書いてもらい、次回冒頭でコメント・討論する。パワーポイントを使用する。 | | |
| 授業外学習 | 配布した資料に基づき、インターネットなどを通じて、事前に調べて、授業内ディスカッションで発表する。また、疑問点、興味を持った事項について調べ、次回の授業内アンケートに記入する。 | | |
| 成績評価方法 | 本試験 (筆記試験、全て持ち込み可) 80%、平常点 (授業内発言、レポート、授業内アンケート質問) 20% | | |
| ステキ | 使用しない | | |
| 参考書籍 | ニーチェ:『悲劇の誕生』岩波文庫 ソボクレス:『オイディプス王』岩波文庫 『旧約聖書 創世記』岩波文庫 『トマスによる福音書』講談社学術文庫 | | |
| 事項特記 | 授業内私語 許さない。出席条件厳守。 | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|---|---|--------|
| 哲学B | 僕らの世界の枠組みを作り出したもの | 篠原 隆 | 1 年次後期 |
| 目的 | 我々の世界のシステムを作り出した思想を理解する。学生は来たるべき人生において、世界における自らの立場を理解し、いかに生きるべきかを論理的に客観的に語ることができる。 | | |
| 到達目標 | 現代の世界を作り出した思想的枠組みを理解でき、その中で自らの生活設計を大局的に捉えて描くことができ、様々な視点から自らの生きる意味について、論理的に語ることができる。 | | |
| 講義内容 | 自然・社会・人間を合理化すればするほど、人間は自由になる。この啓蒙のスローガンのもとに、人類は自然・経済・宗教・社会を合理化してきた。しかし啓蒙の夢は裏切られた。徹底的な市場の合理化のもとで非人間化が進行している。グローバリズム、資本主義の終焉、フロンティアの消滅と超格差社会、止められぬ環境破壊。啓蒙はどこで道を間違ったのか。この啓蒙の歩みに照準をあて、その父権的哲学の陥った逆説（原因）を浮かび上がらせ、理性（我々）の運命を問う。我々の明日はどこにあるのか。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | アウシュヴィッツの標語「労働は人間を自由にする」狩猟採集から農耕定住へ 人類が選択したこと | |
| | 第2講 | シャーマンの自然認識 呪術とは何か 等価交換のシステム | |
| | 第3講 | 神話から哲学的自然認識へ 始源と無限 変化するもの vs. 変化しないもの | |
| | 第4講 | ならば三角形の2辺の和は他の1辺に等しい 無は存在するか 1を見たことがあるか この世は仮想か | |
| | 第5講 | 終わりが始めにある（目的論）。この世の終わりが神である（哲学者の神）。 | |
| | 第6講 | 世界の背後 | |
| | 第7講 | それはただの名前だ 人間は地上に示現せる神 世界魔術合戦 世界は数で出来ている | |
| | 第8講 | 傭兵デカルトの戦略 神の存在証明と寸借詐欺 神の錦の御旗のもとに | |
| | 第9講 | 欲望する自動機械 死が生を可能にする 従えそして支配せよ ホッブス | |
| | 第10講 | 神は語らない 労働しないことは罪である 宗教改革とレーガノミクス 世界システムと資本主義の終焉 | |
| | 第11講 | 労働はなぜ楽しいか 資本主義における自由と快樂 道具としての私（官僚的制度）。 | |
| | 第12講 | 「努力は必ず報われる」（アイドル・カリスマとは何か） 近代理性は自由の敵である（ウェーバー官僚論） | |
| | 第13講 | 理性と自由をつないだ夢の行方 我々はどこで間違えたのか 希望はあるのか。 | |
| | 第14講 | 希望の原理（エルンスト・ブロッホ）。裏切られることに意味がある。 | |
| | 第15講 | 再度、問おう。人間とは何か。希望である。 | |
| 指導方法 | 講義を中心とし、毎回資料を配布する。映像資料を満載し、視覚的に捉えられるようにする。毎回、感想・意見を書いてもらい、次回冒頭でコメント・討論する。パワーポイントを使用する。 | | |
| 授業外学習 | 配布した資料に基づき、インターネットなどを通じて、事前に調べて、授業内ディスカッションで発表する。また、疑問点、興味を持った事項について調べ、次回の授業内アンケートに記入する。 | | |
| 成績評価方法 | 本試験（筆記試験、全て持ち込み可）80%、平常点（授業内発言、レポート、授業内アンケート質問）20% | | |
| テキスト | 啓蒙の弁証法—哲学的断想：岩波文庫 | | |
| 参考書籍 | フランクフルト学派—ホルクハイマー、アドルノから21世紀の「批判理論」へ：中公新書 | | |
| 特記事項 | 授業内私語 許さない。出席条件厳守。 | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|---|-------------------------|-------|
| 歴史学A | 近代における生活の変化を理解する | 濱 雄亮 | 1年次前期 |
| 講義の目的 | 近代化に伴う生活の変化や女性史・無文字社会の歴史・地方史など、記録に残りづらいために高校までの歴史の授業では触れられることが少ない領域について学ぶことで、歴史をより深く理解できるようになることを目指します。 | | |
| 到達目標 | 近代における生活の変化や人々の生きざまについて具体的に説明できることを目指します。 | | |
| 内容講義 | 近代における生活の変化について、様々な視点から具体例を多く紹介します。また、女性史・無文字社会の歴史・地方史などについても紹介します。人々の生きざまについて実感を得られるよう、具体例を多く紹介します（外国も含む）。 予備知識はとくに必要ありません。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | 導入：歴史を学ぶ理由 | |
| | 第2講 | 服装の歴史と変化 | |
| | 第3講 | 食事の歴史と変化 | |
| | 第4講 | 住居の歴史と変化 | |
| | 第5講 | 労働の歴史と変化 | |
| | 第6講 | 移動の歴史と変化 | |
| | 第7講 | 日本語の歴史と変化 | |
| | 第8講 | 家族の歴史と変化(1)結婚 | |
| | 第9講 | 家族の歴史と変化(2)イエ | |
| | 第10講 | 女性の歴史と変化(1)仕事 | |
| | 第11講 | 女性の歴史と変化(2)生活 | |
| | 第12講 | 無文字社会の歴史(1)アフリカにおける口頭伝承 | |
| | 第13講 | 無文字社会の歴史(2)音読から黙読へ | |
| | 第14講 | 沖縄の歴史 | |
| | 第15講 | 総括 | |
| 指導方法 | 毎回紙の資料を配付して講義形式の授業を行います。映像資料やウェブ上の動画・画像や講師が撮影した写真を映写することもあります。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問し、履修者の答えを講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。毎回、コメントカード記入などの授業内課題を課します。 | | |
| 授業外学習 | 事前学習として、シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・ウェブサイトによって概要を調べて下さい。事後学習として、授業中に紹介した書籍や配布物を読むことや、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。 | | |
| 成績評価方法 | 平常点（授業内課題）：55%、本試験（筆記試験）：45%。 | | |
| テキスト | 用いません。紙の資料を配付します。 | | |
| 参考書籍 | 大門正克『語る歴史、聞く歴史』岩波書店、2017年。川田順造『無文字社会の歴史』講談社、2001年。宮本常一『忘れられた日本人』岩波書店、1984年。柳田国男『明治大正史 世相篇』講談社、1993年。他にもその都度紹介します。 | | |
| 特記事項 | 学外での見学会を行う場合があります（歴史的行事や博物館など）。 | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|--|------------------------|-------|
| 歴史学B | 「文化」の歴史と変化を理解する | 濱 雄亮 | 1年次後期 |
| 講義の目的 | 様々な視点から「文化」の歴史と多様性・共通性を分析する方法についての理解を深めることと、江戸・東京・豊島区の歴史について理解することを目指します。それを通して、グローバル化の進展や東京オリンピックを控えた現在に必要とされる、異文化や自文化について考える能力を身につけられるようにします。 | | |
| 到達目標 | 「文化」の歴史と多様性・共通性の背景について具体的に説明できること、「文化」を比較する方法を具体的に説明できること、江戸・東京・豊島区の歴史について具体的に説明できることを目指します。 | | |
| 講義内容 | 「文化」について、広い視点でいろいろな事例を紹介します。ここでいう「文化」には、食事やあいさつや親戚付き合いの方法など、私たちが「当たり前」と思っている多くの行動や常識を含んでいます。このような広い意味での「文化」について、他の地域の例や過去の例と照らし合わせて具体例を多く紹介します（外国の例を含む）。また、私たちが生活している東京・豊島区の歴史について紹介します。 予備知識はとくに必要ありません。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | 導入：「文化」とはなにか | |
| | 第2講 | 儀礼：成人式はなぜ荒れる？ | |
| | 第3講 | 呪術・妖術：呪いは遠い世界のこと？ | |
| | 第4講 | 民族と人種：自分を誰とどう比べるのか？ | |
| | 第5講 | 交換と経済：「おごる」ことの意味とは？ | |
| | 第6講 | 出産と子育て：子どもとはどんな存在か？ | |
| | 第7講 | 身体観の歴史：体の境目はどこにあるのか？ | |
| | 第8講 | 病気観の歴史：どんな状態が病気？ | |
| | 第9講 | 異文化との接触と文化の変化 | |
| | 第10講 | 江戸と東京の歴史（1）江戸時代の土地利用 | |
| | 第11講 | 江戸と東京の歴史（2）明治時代以降の土地利用 | |
| | 第12講 | 豊島区の歴史 | |
| | 第13講 | 歴史的文化財とその保護 | |
| | 第14講 | 震災と芸能 | |
| | 第15講 | 総括 | |
| 指導方法 | 毎回紙の資料を配付して講義形式の授業を行います。映像資料やウェブ上の動画・画像や講師が撮影した写真を映写することもあります。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問し、履修者の答えを講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。毎回、コメントカード記入などの授業内課題を課します。 | | |
| 授業外学習 | 事前学習として、シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・ウェブサイトによって概要を調べて下さい。事後学習として、授業中に紹介した書籍や配布物を読むことや、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。 | | |
| 成績評価方法 | 平常点（授業内課題）：40%、平常点（レポート）：15%、本試験（筆記試験）：45%。 | | |
| テキスト | 使いません。紙の資料を配付します。 | | |
| 参考書籍 | 陣内秀信『東京の空間人類学』筑摩書房、1992年。波平恵美子〔編〕『文化人類学 カレッジ版』第3版、医学書院、2011年。道信良子〔編著〕『いのちはどう生まれ、育つのか』岩波書店、2015年。他にもその都度紹介します。 | | |
| 特記事項 | 学外での見学会を行う場合があります（歴史的行事や博物館など）。 | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|---|-------------------------------------|-------|
| 心理学A | 人間行動の科学 | 兼高 聖雄 | 1年次前期 |
| 講義の目的 | 心理学的なものを見方を理解する／心理学の基礎的知識を身につける／応用的に知識を使うくせを付ける | | |
| 到達目標 | 自身の周辺の出来事、他の授業で学んだ事柄を科学的心理学的態度で分析できるようにする | | |
| 内容講義 | 基礎的心理学の各領域について概説する。人間の行動を分析し科学する学問である心理学の全体像を半期で提示する。またそれぞれの研究領域が現実の社会現象や社会行動を分析するときどのように機能するのかを説明する。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | ガイダンス | |
| | 第2講 | 心理学とは何か [心理学的なもの見方、 $B=f(P, E)$ とは] | |
| | 第3講 | 感覚の心理学／人はどのようにものを見るのか、聞くのか、その入り口 | |
| | 第4講 | 感覚の心理学／感覚情報はどのように処理されるのか、神経回路網の情報処理 | |
| | 第5講 | 知覚の心理学／脳内でおこること。感覚から大脳へ。 | |
| | 第6講 | 学習の心理学／行動のコントロール | |
| | 第7講 | 思考の心理学／「なーんだそうだったのか、わかったぞ」の科学。 | |
| | 第8講 | 理解・認知・言語／知的情報処理の世界 | |
| | 第9講 | 欲求の心理／からだところのアンバランスから行動へ | |
| | 第10講 | トピックス／心理学の応用事例 | |
| | 第11講 | 発達と心理／大人への階段ののぼりかた | |
| | 第12講 | パーソナリティ／あなたはどんな人？ | |
| | 第13講 | 態度と説得／お客さん、これ買いませんか？ | |
| | 第14講 | 心理学のモデル | |
| | 第15講 | 理解度の確認と評価 | |
| 方法指導 | 通常の講義形式であるが、教材はすべてコンピュータで提示する。できるだけ双方向の展開を予定しているので積極的な授業参加と、しっかりしたノートテイキングが求められる。 | | |
| 学習外 | 授業内で参考となるメディアおよび追加課題を提示する。 | | |
| 成績評価方法 | 本試験（レポート）20%、平常点（授業内課題）50%、平常点（応用課題）30% | | |
| ステキ | 特に指定しない | | |
| 書籍参考 | 授業内で必要に応じて紹介 | | |
| 事項特記 | | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|--|----------------|--------|
| 心理学B | 人間行動の科学 | 兼高 聖雄 | 1 年次後期 |
| 講義の目的 | 心理学は「行動の学」である。この授業では、心理学を利用して、人間のさまざまな行動のうち、最も多様でもっとも複雑な社会行動を分析する実例を紹介し応用的視点を養う。 | | |
| 到達目標 | 社会現象を自分なりに分析できる方法論をみにつける | | |
| 講義内容 | 社会行動とは、他者と関わることを前提とした行動で、消費行動もコミュニケーションも社会行動である。社会の多様性や仕組みは、すべて人の社会行動を基盤としている。この授業では、心理学的に社会を分析し、受講者が現在あるいは将来、自らを取り巻く社会環境を分析するときに役立つ視点を与えることを目的とする。特に前期の心理学Aの履修は前提としないが、用語や理論の理解のためには受講しておくことがのぞましい。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | 社会的行動とは | |
| | 第2講 | 「伝わる・動かす」と心理学 | |
| | 第3講 | コミュニケーションの心理 | |
| | 第4講 | メディア表現と行動 | |
| | 第5講 | 説得的コミュニケーション | |
| | 第6講 | メディアが作る文化・習慣 | |
| | 第7講 | 噂と都市伝説 | |
| | 第8講 | 流行、普及、ヒットとその背景 | |
| | 第9講 | 広告とその手法 | |
| | 第10講 | 若者と広告 | |
| | 第11講 | 音楽とコミュニケーション | |
| | 第12講 | ポップカルチャーの分析 | |
| | 第13講 | 新しい消費行動と心理学 | |
| | 第14講 | メディア環境と人々 | |
| | 第15講 | 理解度の確認と評価 | |
| 方法指導 | 通常の講義形式であるが、教材はすべてコンピュータで提示する予定。できるだけ双方向の展開を予定しているので積極的な授業参加と、しっかりしたノートテイキングが求められる。 | | |
| 授業外学習 | 授業内で参考となるメディアおよび追加課題を提示する。 | | |
| 成績評価方法 | 本試験（レポート）20%、平常点（授業内課題）50%、平常点（応用課題）30% | | |
| ステキ | 特に指定しない | | |
| 書籍参考 | 授業内で必要に応じて紹介 | | |
| 事項記 | | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|--|----------------------------------|-------|
| 文学A | 日本文学を味わう | 山口 隆正 | 1年次前期 |
| 目的 | 文学史の流れとともに上代から中古までの日本文学を代表する作品を取り上げて、それぞれの作品の特徴を理解する。 | | |
| 到達目標 | 1) 文学作品を読み、味わう。 2) その時代の作品と現代の身近な作品を比較しながら考察する。 | | |
| 内容 | 各年代の作品や筆者の持っている文学の魅力を受講生自らで感じられるように読み進める。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | オリエンテーション | |
| | 第2講 | 上代の文学の概観 上代（『古事記』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第3講 | 上代（『日本書紀』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第4講 | 上代（『風土記』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第5講 | 上代（『万葉集』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第6講 | 中古の文学の概要、中古（『古今和歌集』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第7講 | 中古（『竹取物語』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第8講 | 中古（『伊勢物語』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第9講 | 中古（『源氏物語』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第10講 | 中古（『堤中納言物語』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第11講 | 中古（『土佐日記』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第12講 | 中古（『更級日記』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第13講 | 中古（『枕草子』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第14講 | 中古（『今昔物語集』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第15講 | 上代・中古作品のまとめ | |
| 指導方法 | 1) 毎週、配布する資料を読みこみ、受講生の理解を深める。 2) 日本文学の系譜が過去から現代までどのように関わっているか、その変化について学ぶ。 | | |
| 授業外 | 輪番制により各時代ごとに1名の発表を課す。予習が何回かあたります。 | | |
| 成績評価 | 本試験（レポート：1課ごとに個人に当てた中から纏めた形式で提出）70%、平常点（授業における発表力）30% | | |
| テキスト | 『原色シグマ新日本文学史 ビジュアル解説（シグマベスト）』2000年、秋山虔・三好行雄（編）、文英堂 | | |
| 書籍 | 参考書などは授業中に紹介します。 | | |
| 事項 | 日本文学・歴史・文化史の好きな学生は参加してみてください。 | | |

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|----------|---|--|--------|
| 文学B | 日本文学を味わう | 山口 隆正 | 1 年次後期 |
| 目的 | 文学史の流れとともに中世から現代まで日本文学を代表する作品を取り上げて、それぞれの特徴を理解する。 | | |
| 到達目標 | 1) 文学作品を読み、味わう。 2) その時代の作品と現代の身近な作品を比較しながら考察する。 | | |
| 内容 | 各時代の作品や筆者の持っている文学の魅力を受講生自らで感じられるように読み進めていく。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | 中世の文学の概説、中世（『新古今和歌集』『百人一首』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第2講 | 中世（『平家物語を読む』）作品の概要と解説 | |
| | 第3講 | 中世（『方丈記を読む』）作品の概要と解説 | |
| | 第4講 | 中世（『徒然草』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第5講 | 近世の文学の概観、近世（『浮世草子』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第6講 | 近世（『雨月物語』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第7講 | 近世（『浮世風呂』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第8講 | 近世（『奥の細道』を読む）作品の概要と解説 | |
| | 第9講 | 近代の文学の概観（坪内逍遙を読む）『小説神髓』作品の概要と解説 | |
| | 第10講 | 近代（樋口一葉を読む）『たけくらべ』作品の概要と解説 | |
| | 第11講 | 近代（島崎藤村を読む）『初恋』作品の概要と解説 | |
| | 第12講 | 近代（夏目漱石をよむ）『それから』作品の概要と解説 | |
| | 第13講 | 大正期（志賀直哉を読む）『城の崎にて』作品の概要と解説 | |
| | 第14講 | 昭和期（川端康成を読む）『雪国』作品の概要と解説 | |
| | 第15講 | 中世・近世・現代の文学のまとめ | |
| 方法指導 | 1) 毎週、配布する資料を読み込み、受講生の理解を深める。 2) 日本文学の系譜が過去から現在までどのように関わっているのか、その変化について学ぶ。 | | |
| 授業外 | 輪番制により各回ごとに1名の発表を課す。予習が何回かあります。 | | |
| 成績評価 | 本試験（レポート：1課ごとに個人に当てた中から纏めた形式で提出）70%、平常点（授業における発表力）30% | | |
| ステキ | 『原色シグマ新日本文学史 ビジュアル解説（シグマベスト）』2000年、秋山虔、三好行雄（編） 文英堂 | | |
| 書籍 | 授業内で指示します。 | | |
| 事項 | 日本文学・歴史・文化に興味のある学生は参加してみてください。 | | |